追ニ、其方受取申ベシト云、醫師答テ、カヽル穢ハ敷面體ノ者、召仕フ人、何方ニモ有ベカラジト云、此時大隅守、醫師ヲハツタト白眼テ、其方、最初ハ、ライ病ヲ直シタリト云ヒ、今又カヽル穢ハ敷面體ト云事、其意ヲ得ズ、直セシ者ナラバ、ケガラハ敷ハ見ヘザルベシ、ケガラハ敷見ユレバ、直セシニハ有ラザルベシ、其方心底ハ、病人、追々困窮ニ成ルヲ見テ、早ク金子ヲ取テ仕舞ント思ヒ、未ダ直シキラザルニ、直シタリトシテ、金子ヲ取ント思ヒシヨリ、カク奉行所ヘ訴ヘ出シナルベシ、醫師ヲ業トシナガラ醫師ノ本意ニ違ヘル不屆者メ、強ヒテ申立ルニ於テハ、急度申付方有ルゾト叱リテ、名主五人組ヘ預ケ歸サレケル、

〔拾芥抄下末養生〕養生方

久行傷筋　久立傷節　久聽傷聰　久視傷目　久語損氣　大驚傷魂　高枕勿睡　大小便時勿瞻曜宿

正勿向西　正勿向北　臥勿燈明　脫衣勿汗　冬可凍聰　亦可温足　春興秋則首足俱凍　好勿竭精觸若女膚

晨勿歌嘯　眠勿大語　臥勿覆頭　臥勿開口　夜勿說夢　夜行鳴齒　大便勿呼　少便勿怒

不進陰物　猪與麋胎　鹿茸水銀　亦勿食蕨　勿食鼠殘　臥眠時不得歌詠

凡旦起、恒言善事者、天自與福、冬凍聰温足、春秋首足俱凍、此聖人之常法也、

〔簾中抄下〕養生　かくふるまへば、病なく命ながし、

人は、いたくやすらかなるべからず、つねに物をすべし、またいたくくるしくは思ふべからず、いづれもあし、つねにかゞみをみよ、たゞしかたちをあひすべからず、あつきをりにありきをして水にむかふべからず、おほきにあせにあへたらば、身にはうにをぬるべし、あせにぬれたらんきぬをばとくきかへよ、あしにあせあへたらば、水になさしいれそ、冬はあしをあたゝかにして、かしらをすゞしくすべし、春秋はかしらもともにすゞしくすべし、

〔醫心方二十七〕大體第一